

# 広報 きたうら

昭和62年11月号 No.273

発行 北浦村役場 編集 調査企画室  
茨城県行方郡北浦村山田2564-10 ☎311-1720 0291-5-2111(代)



村民憲章

- 心身を鍛え教養を深め  
文化の香り高い村をつくりましょう。
- 北浦の湖水と緑豊かな環境を大切にし  
美しく清潔な村をつくりましょう。
- 時間どきまりを守り  
秩序ある平和な村をつくりましょう。

- お互いに助け合いまごろの通う  
明るい村をつくりましょう。
  - 仕事に誇りをもち  
活力ある村をつくりましょう。
- 村の花／きく、村の木／ひのき、村の鳥／うぐいす

農家の嫁さんは  
こう考えています  
**金婚祝賀式**  
消費者の声から  
この人に**インタビュー**  
ふるさとの昔話

茨城県の銘柄推進産地に指定されている  
「北浦みつば」の収穫が最盛期をむかえ  
ています。今年は、モザイク病やテング  
ス病が発生して、昨年に比べ3割以上  
の収穫減が予想される厳しい現状で  
すが、産地の名にこたえようとみ  
なさん一生懸命がんばっています。



# 農家の嫁さんはこう考えてています

農家若妻アンケートから  
知りあつたきっかけ

農家の嫁さんは今何を考えているのか――  
村では昨年、農業研究センターに協力を願いし「農家の若妻に関するアンケート」を実施しましたが、このほどその集計結果がまとまりました。

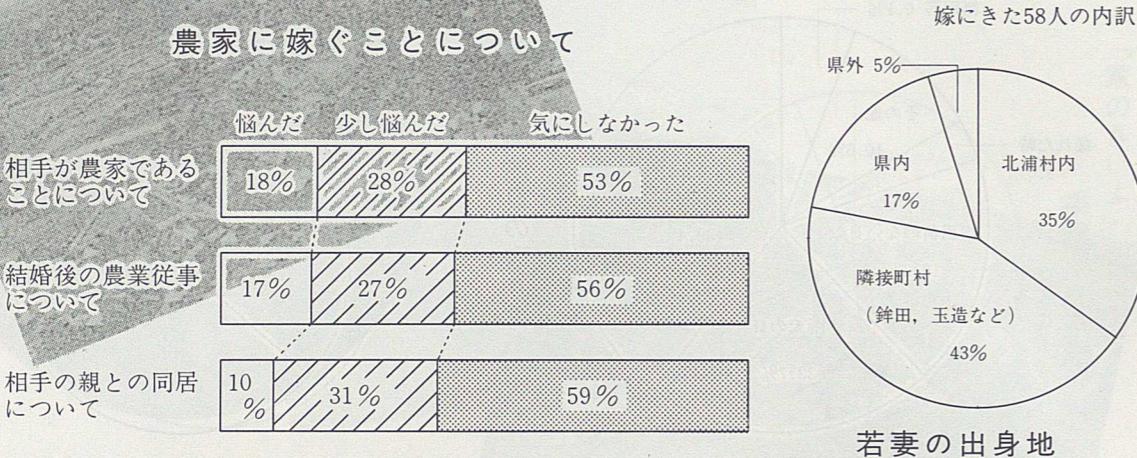
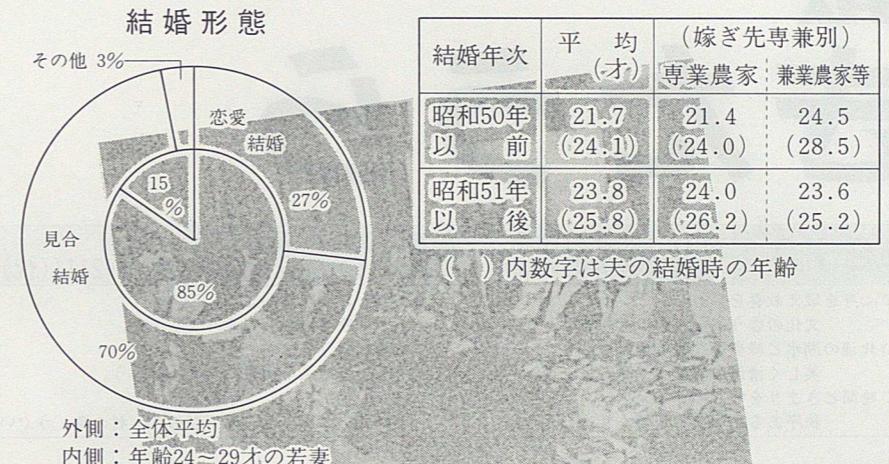
このアンケートは、農村の「嫁不足」を考える一端として、現在の農家の若妻がどのような過程で「農家の嫁」となり、今どのような問題をかかえているのかを明らかにするために行なったものです。アンケートには一四歳から四三歳までの六六人から回答が寄せられ、うち六八%が専業農家となっています。

## 結婚に職業は関係ありません

回答者の結婚したときの平均年齢は、結婚した年を昭和五〇年で区切ると、それ以前は二一・七歳、以後は二三・八歳となっています。これは、最近になるほど結婚年齢が上昇している傾向を示しています。農家の専業、兼業別では専業農家の方が若干高くなっています。

結婚の形態は、見合い結婚が七〇%と大部分ですが、二〇歳代だけをみると八五%が恋愛結婚となっています。また、この世代は結婚前は「つとめだけ」で農業をしたという経験はほとんどないことが特徴です。これは、

- 2 -



## 家族でできるからいいんですね

「農家の嫁うこと」で聞いているように、結婚前は農業といふう職業を気にしなかつたという人が多いことに関連して、まず相手次第、といふ意識が強いことをあらわしています。

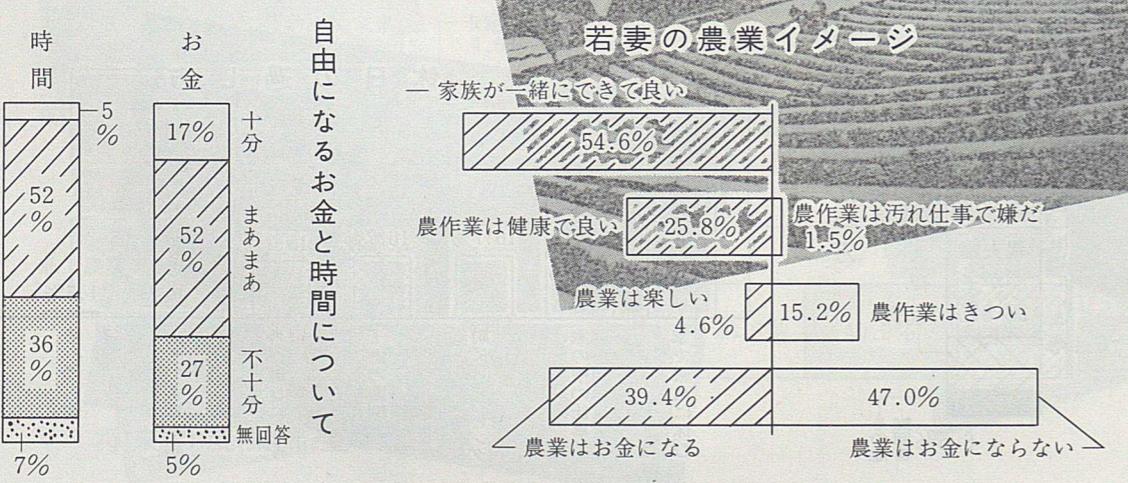
若妻の農業に対するイメージは、「良い」と「悪い」が半々に分かれます。三〇歳以上の人には家族が一緒になつて仕事ができることに良いイメージをもっており、若い人は作業がきついとか収入が少ないといったマイナスのイメージをもっているようです。農業収入について今は経営規模の大きい農家ほどお金にならないと答えていました。

「嫁」の地位にある農家若妻の自由になるお金と時間については、いずれも不十分との答えが多く、特に時間についての不満は二ヘクタール以上の経営規模をもつ農家の若妻で「十分」とする答えがゼロとなつており農作業時間のとり方やその長さが問題と言えます。

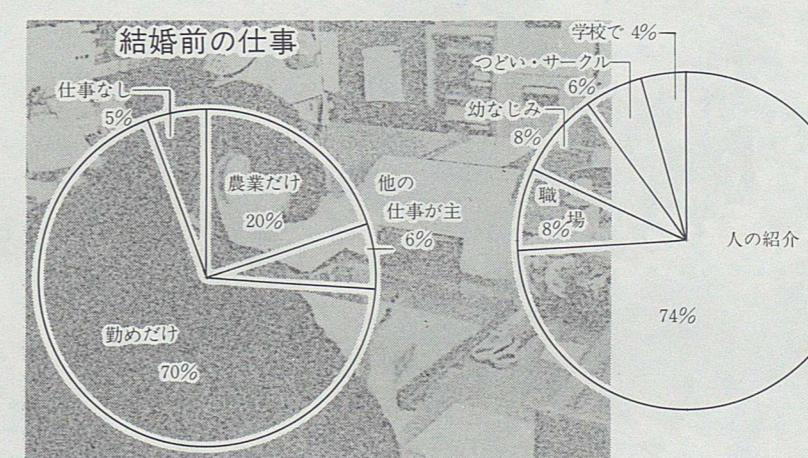
休日については、農繁期は雨天の日や出荷のない日々らいでほとんど取れないといえます。また、休日の過ごし方もふだん忙しくてできない家事をかたづける時間となつております。若妻本人の休息にはほど遠い現実となつています。

## 別棟に住むのが常識みたい

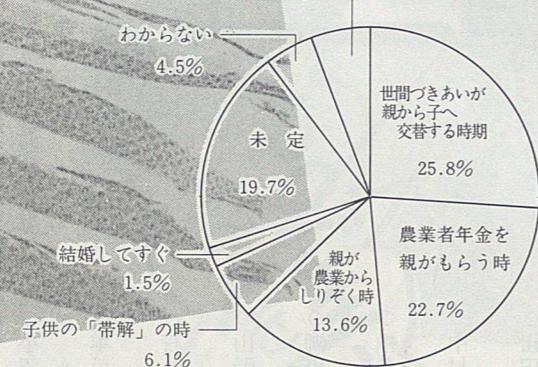
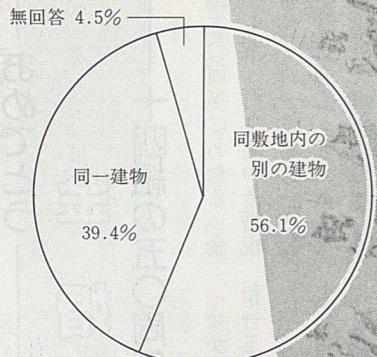
「家のさいふ」がいつ若夫婦に譲られるかは、親の年齢が六〇歳になつたころが目安のようです。もつともそ



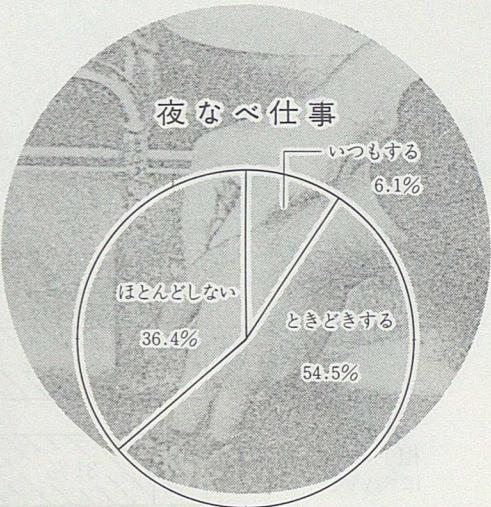
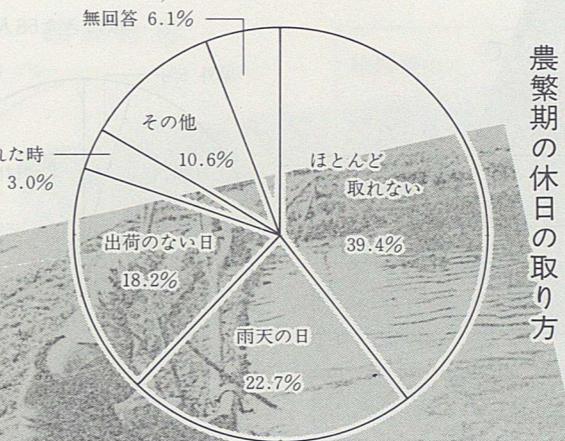
- 3 -



## 2世代の同居の仕方



## 「家のいふ」の委譲される時期



農家に嫁いだ若妻は、結婚前はほとんど農作業をしたことなく、結婚後にそれを修得しなければなりません。しかし、単に手伝いではなく、それぞれの仕事に責任をもつた農作業をしなければならないのです。さらに、施設園芸の導入、農業の機械化などにより、女性の担当する作業部門が年間を通じて多くなっています。家事や育児もしなければならない若妻にとって、これは大変な負担といえます。サラリーマンと比較して農業の方が仕事をしてのやりがいがあると答えている若妻が六五%もいるのに対し、生活のゆとりについては逆にサラリーマンの方があると考える人が四〇%と多いのもこのあらわれといえます。

農家の若妻の多くが、仕事としての農業に対して好感と意欲をもっているのに、その生活や仕事の環境条件がきびしいということは大きな問題であると言えます。経営規模の小さい農家や若い主婦たちが、将来つとめに出てたいと考えているのは、これらの問題に対する警鐘といえるのではないかでしょうか。

現在の農業事情や地域の習慣などを考えあわせても、今すぐにこれらの問題が解決されるわけではありませんが、若妻の農業意欲が報いられる環境づくりは、家庭内

## 私たちの「やる気」を大切にして下さい

実際に農業をしてみると大変ですよ。それまでぜんぜん農業をしたことがなかつたんですから。一から主人に教えてもらつたわけですが、最初のころは辛いことも多かったです。でも自分で植え付けしたものが育つていく様子に向いくといいですね。

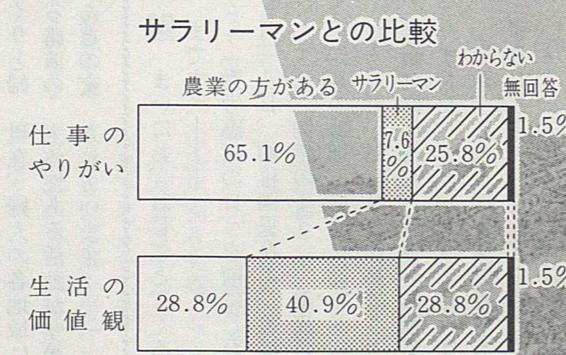
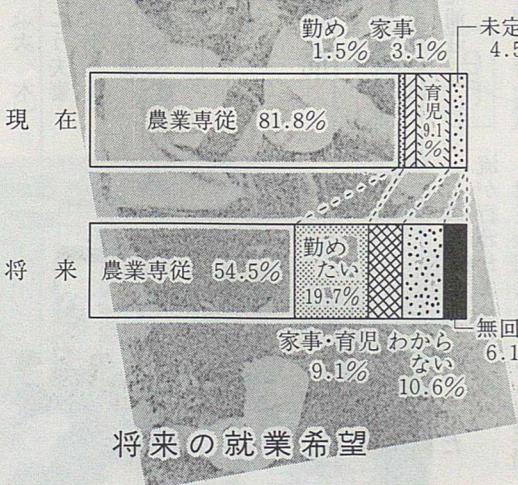
実際に農業をしてみると身としては農業にある種のあこがれをもつていたんですね。特に夫婦が一緒に仕事ができるということに対しては「いいなあ」と思つていて改善していくことがあります。

河野美智子さん・三九歳・次木  
▶ 河野さん

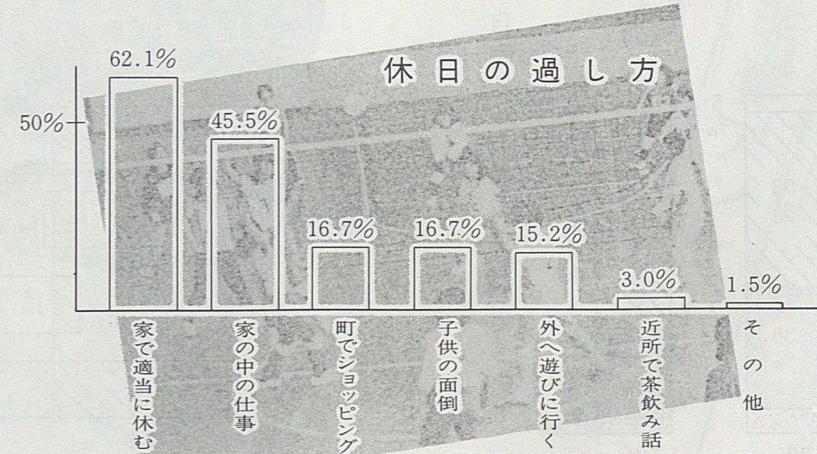
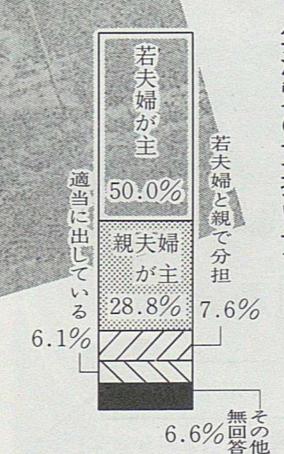
結婚前の農業のイメージは私の実家は農業はほとんどしていませんでした。姉なども都会のサラリーマンに嫁ぎましたし、友だちからも「エー、農家にお嫁さんにいくの」と言われました。でも、私自身としては農業にある種のあこがれをもつていたんですね。特に夫婦が一緒に仕事ができるということに対しては「いいなあ」と思つていて改善していくことがあります。

ミニインタビュー 専業農家の主婦に聞きました  
私も農業をしたことがなかつたんですね

で、地域で、そして村全体で、改善していかなくてはならない課題であるといえます。



## 生活の価値観



# おめでとう 金婚式 十四組の五〇周年を祝う

結婚五〇周年にあたる「金婚式」を祝う村主催の金婚祝賀会が一月一八日、十四組のご夫婦を迎えて、老人センター「北浦荘」で開催されました。式では、村長のあいさつに続き、それぞれのご夫婦に賀状が贈られ夫婦健康で迎えた五〇周年を祝いました。

今から五〇年前といえば昭和一二年、日中戦争の始まり年です。戦争が続き、子どもたちを育てるにも大変な時代をがんばってこられたみなさん、今後も仲よくお元気で、なお、十四組のみなさんは次の方々です。

- 小沼 邦守、やい夫妻 (吉川)
- 本戸 太右衛門、芳子夫妻 (繁昌)
- 柳川 章、夕子夫妻 (山田)
- 中村 士郎、富美子夫妻 (南高岡)
- 石井 慶作、すき夫妻 (行戸)
- 椎名 貞信、栄子夫妻 (小幡)
- 斎藤 徳吉、キク夫妻 (小幡)



- 武田 裕、幸夫妻 (成田)
- 栗保安、まき夫妻 (長野江)
- 佐藤 充、キミエ夫妻 (横田)
- 野原 吉男、こう夫妻 (小貫)
- 横田 信、ます夫妻 (小貫)
- 栗原 幸、木村夫妻 (次木)

## あすの農業をささえる 婦人農業者のみなさんと交流

現在村では、地域の実情に即した農業をするため、「地域農政推進対策事業」を実施しています。

この事業の一環として、農用地利用改善組合の主催する農用地利用改善組合長の藤島一郎さんの「集落づくりと婦人の役割り」と題する講演の和・長野江・南高岡・両宿・後、各地区のみなさんとの交



## おしごと ごくろうさまです

### 幼稚園児が役場を訪問

「まいにち、おしごとごくろうさまです」と書かれた横断幕が掲げられています。この横断幕は、月一八日、幼稚園児たちが役場をおとずれ、例年のように季節の花や手作りの紙細工をプレゼントしてくれました。贈られた作品はさまざまありました。ありがとうございます。現在、婦人の各地域における主体性ある活動が今後も期待されています。



## 商品について

区に較べ武田地区が少なくなっています。また、回答内容も地区によって差がみられます。回答者の数により、このようない差がでましたが、今後はより多く消費者の方に関心をもつてもらいたい、協力していただきたいと思います。

このアイデアをうけ、商工会では、さっそく箱の意匠を決めて、そこにアンケート用紙を添えてみんなの意見を聞くことにしました。

この結果が商工会でまとめられましたのでお知らせします。

なお、集計は八月一日から末日までが第一回、九月一日から末日までが第二回で、地区別には津澄、要、武田など

## 意見・要望

品揃えや新鮮度といった商品に関する問い合わせは、普通と答える人が多いようです。しかし、九月の要地区にみられるように極端に「悪い」といいう結果もみられます。

この結果が商工会でまとめられましたのでお知らせします。

なお、集計は八月一日から末日までが第一回、九月一日から末日までが第二回で、地区別には津澄、要、武田など

この項も普通が多くなっています。ただ、意見・要望の結果もみられます。

この結果が商工会でまとめられましたのでお知らせします。

なお、集計は八月一日から末日までが第一回、九月一日から末日までが第二回で、地区別には津澄、要、武田など



恒例の4H祭が一月一五日、北浦村公民館で開かれました。

こちらも盛況でした。  
老人を囲む三世代の集い



人気の迷路



◀ 金魚すくい

迷路毛  
出現



第一四回鹿行地区乳牛共励会を  
かねた「畜産まつり」が一〇月三  
〇日、村民グランドで開催されま  
した。

北浦村恒例の村内一周駅伝大会が来年一月一五日に行われます。この大会は第三〇回を記念して村外からも参加申し込みを受け付けます。みなさんふるってご参加ください。

○日時 昭和六三年一月一五日（成人の日）

○参加申込み締切り

○代表者会議

昭和六二年一二月一九日  
(土)午後二時から北浦村公民館で

○役場前スタート

女子 午前九時四五分  
男子 午前一一時

# 30回記念 村内一周 駅伝大会 のお知らせ

第三位	掛田 律子
□	小学生高学年男子の部
優勝	柳瀬 有寿
準優勝	方波見 忠弘
第三位	石橋 達也
〃	迫田 豊弘

村民ゴルフ大会  
一〇月二〇日〔センラルゴルフクラブ〕

# スポーツ の結果

優勝	国友	和子
準優勝	高柳みつ子	
第三位	木植	信子
第一四回北浦剣道大会		
一〇月三一日柔剣道場		
□小学生低学年の部		
優勝 大久保秀明		
準優勝 掛田 早苗		
第三位 磯山 潤		
〃 宮内 忠一		
□小学生高学年女子の部		
優勝 橋本亜紀子		
準優勝 高柳 幸子		

一般書——（作者名）——  
ジョージ君の「料理大好き！」（東海林さだお）・墜落の夏（吉岡忍）・JRのすべてがわかる本（松尾定行）・女の器量はことばしだい（広瀬久美子）・二〇代は個性の冒險（幸田シャーミン）・アドルフに告ぐ全四巻（手塚治虫）・「マルサの女」日記（伊丹十三）・蝶々のつづればなし（ミヤコ蝶々）お楽しみはこれからだ全四巻（和田誠）・トロッコが行く（梅沢浩二）・なぜか将棋人生（湯川博士）・手話入門（伊藤政雄、竹林茂海辺でからっぱ（田中小実昌）・くたばれグルメ（中島梓）・地下水道（井上充晴）・そして始まり（藤間高子戦争拒否――一人の日本人（山村毅）・相対幻論（吉本隆明、栗本慎一郎）・サラダ記念日（俵万智）・おでかけ気分（木野花）・ドキュメント家族（鎌田慧）

## 公民館図書だより

## 第15回 北浦村芸術祭

昭和六二年一二月一九日  
の代表者会議まで





# 12月のカレンダー

日	曜	時 間	場 所	行 事	備 考
5	土	午後 7時30分 から 9時30分	北浦村公民館	ダンス講座	12日・19日にも開催
9	水	午後 7時から 9時	"	着付講座	16日にも開催
10	木	午後 1時30分 から 3時30分	"	水墨画講座	24日にも開催
11	金	午後 1時30分 から 4時	"	七宝焼講座	25日にも開催
"	"	受付 午後 1時30分 から 2時30分	母子健康 センター	一般健康相談	
13	日	午前 9時から 午後 3時	津澄小学校 体育館	創作講座 (たこ作り)	
14	月	受付 午後 1時30分 から 2時30分	母子健康 センター	母子保健教室	(後期)
"	"	午後 1時30分 から	北浦村公民館	料理講座	
15	火	"	"	歴史講座	
17	木	受付 午後 1時30分 から 2時30分	母子健康 センター	予防接種 (3種混合)	I期
18	金	"	"	妊婦健康診査	
19	土	午後 2時から	北浦村公民館	第30回村内一周駅 伝大会代表者会議	体協 (☎ 5-2693)
21	月	受付 午後 1時30分 から 2時30分	母子健康 センター	育児相談	

人口の動き	
住民基本台帳調(10月末)	
人 口	11,147
男	5,555
女	5,592
世帯数	2,461
転 入	18
転 出	19
出 生	9
死 亡	14

○ 今の農業は近代化されていない」という話を聞きます。故に、嫁不足なのだと。これは農業の技術的な問題ではなく、農業に対する考え方を言っているわけですが、みんなはどうお考えでしょうか。○ 減反、バイオ農業、むらの習慣。でも、農家の女性はやる気があります。

あとがき



公民館と津澄学区子供会育成会では、「常陸たこの会」の石山昭先生を迎えてこの創作講座を行います。

【期 日】

12月13日(日)  
午前9時から午後3時

【場 所】

津澄小学校体育館

## スキー教室のお知らせ

【期 日】

昭和63年2月19日(金)  
から21日(日) 2泊3日

【会 場】

群馬県尾瀬岩鞍スキー場

【参加料】

18,000円程度

【対象・人員】

勤労青年及びスキーチューリッジ  
愛好者 40名

【申し込み・問い合わせ先】

参加希望者は、予約金3,000円を添えて、教育委員会・社会教育係☎ 5-2111 内線264まで申し込んで下さい。ただし、参加申し込みをした者で、不参加の場合は、違約金として3,000円を徴収します。

